石巻市役所とスーパー

写真上は今年 7 月 30 日に行った石巻市役所（左）と石巻市民病院。海沿いにあった市民病院は、大震災による津波で大きな被害にあい、JR 石巻駅前に新築された。

震災から 3 ヶ月後に市役所を訪ねた。まだ津波のつめ跡が残っており、被災者らでごった返していた。今回久しぶりに行くと、とりわけ 1 階が閑散としていたので、気になった。朝日新聞 10 月 27 日朝刊「てんでんこ」を読んで、この間の「事情」がわかってきた。紹介したい。

宮城県第 2 の都市、石巻市の市役所は JR 石巻駅の正面にある。役所にしては珍しく、外観の色はピンク。約 1200 人の職員が働く 6 階建ての建物は、東日本大震災が起きる 3 年前の 2008 年春までデパートだった。撤退後の 10 年、市役所が移ってきた。

昨年 5 月、市役所を揺るがす事態が起きた。デパート撤退後も 1 階で営業してきたスーパーが、駅前という一等地にありながら業績が落ち込み、閉店に追い込まれた。別のスーパーに入ってもらおうと、市は募集をかけたり業者に打診したりした。だが、応じる会社はなく、がらんとした空き店舗のまま 1 年半近くがたつ。スーパーを経営していた地元の不動産会社社長、和賀井啓之（65）は言う。「東日本大震災が痛手だった。周辺の施設も人も減り、毎日店を開けるたびに赤字が膨らんだ。閉店は残念でならないが、カネの心配がいらなくなったので妻からは『やっと穏やかな顔になれたね』と言われています」市内では津波などで 4 千人近くが犠牲になり、約 3 万 3 千棟の建物が全半壊した。震災前は 16 万人いた人口は 14 万 4 千人まで減った。和賀井の店は、お年寄りに無料宅配をするサービスで評判も得ていたが、赤字額は毎年 2 千万円に達していたという。

古くからの街の中心部が、大型店の集まる郊外の商業地に取って代わられる。この流れは、石巻でも震災前に起きていた。1998 年に開通した三陸自動車道のインターチェンジ周辺には、今や 5 つのスーパーが立つ。中核は 07 年春にオープンしたイオンモール石巻（当時はイオン石巻ショッピングセンター）。約 2600 台の駐車場を備え、モール内には約 130 店が並ぶ。

駅前のデパートは近場にあった前身の時代から「石巻の顔」として 50 年以上親しまれてきた。営業不振で撤退に追い込まれたのも、郊外店に客が流れるあおりを受けたからだ。厳しい流れに拍車をかけたのが震災だ。今年 5 月、今度は石巻駅に近い商店街の振興組合が解散した。商店主の高齢化や廃業で役員のなり手がいなくなったからだ。

ここは、経済産業省と中小企業庁が 09 年に公表した全国の「新・がんばる商店街 77 選」の一つに選ばれた商店街だった。

（2018 年 11 月 10 日）